

令和7年度 浜松市国語科研究部 第3回研修会報告

1. 日 時 令和7年10月29日(水)

2. 会 場 1ブロック:富塚小 2ブロック:大瀬小  
3ブロック:中瀬小 4ブロック:都田小

3. 内 容

○研究授業とグループ協議

【1ブロック】単元名 「中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう  
『未来につなぐ工芸品』『工芸品のみりよくを伝えよう』」

授業者 富塚小教諭 足立 佐紀

□授業見学の視点

- ・教師が学び方やまとめ方を複数提示すること、自分のレベルに合った方法を選択させること(個人作業か共同作業、オクリンクプラスか手書きなど)は、子供が自ら学びを調整するための手立てとなっていたか。
- ・児童交流で読んだ相手が反応を返す場面を設定すること、振り返りシートを使用して学習段階に合わせて振り返りを行うことは、自分の成長や変化を実感できるような手立てとなっていたか。

□ふり返し

- ・教師作成の手本が板書に示されていたり、オクリンクプラスで資料として見たりできることは、子供たちがリーフレットを作ることに生かされていた。また、自分自身の学習の進捗を板書にネームマグネットを貼って明らかにすることで、授業後半の交流に生かされていた。
- ・学習の導入の段階で9つの伝統工芸品の実物を用意したことが、リーフレットを作ることや地域に拡げていくことの動機づけになっていた。

【2ブロック】単元名 みんなで作ろう!おもちゃ図かん

「紙コップ花火の作り方/おもちゃの作り方」

授業者 大瀬小教諭 平野 遼太

□目標

本単元では、文章の中の重要な語や文、順序等に着目しながら、内容のまとまりを捉えて工夫して書き表すことを目標とした。人に伝えるときに重要な語や文、順序について、実感を伴って書かせるために、生活科の学習でおもちゃ作りの体験を十分に行わせる複合単元を設定した。意欲化を図るために、単元のゴールを「スーパーおもちゃ図鑑」を作ることとし、児童自身が成長実感を得ることができるよう、友達にアドバイスし合う場面を設けた。

□ふり返し

Yチャートを使って、国語科研究部の研修テーマと学習目標を照らし合わせ、本時の授業意見をまとめた。「生活科で実際におもちゃ作りをしているので、必然性のある言語活動の設定となった。」「アドバイスをし合うことで次時の自分の学びを調整することにつながる。」等の意見交流が見られた。

【3ブロック】単元名 「伝記を読み、自分の生き方について考えよう  
『やなせたかし アンパンマンの勇気』」

授業者 中瀬小教諭 石井 未莉

□目標

- ・日常的に読書に親しみ、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。
- ・登場人物の相互関係や心情について、描写を基に捉えることができる。
- ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとしている。

□ふり返り

- ・一人学びか複数で学ぶか選択することができた。
- ・根拠をもとに人物像を考え直すことで、学びの調整の場面が意識できていた。
- ・振り返りを毎時間書いているのがよい。振り返りのポイントを明確にするとさらに成長実感も得られるのではないか。

【4ブロック】単元名 「じどう車ずかんを作ろう」

授業者 都田小教諭 鈴木 隆仁

□目標

「個やグループでの学習を通して、自分の選んだ自動車のことを紹介するために最も適した情報を資料から選ぶことができる」であった。実際の活動としては、自分が選んだ自動車のいろいろなつくりの中から、その自動車の仕事に関わる、とっておきのつくりを2つ文章から選び、紹介カードを書くという活動内容となった。

□ふり返り

- ・タブレットを活用することで、児童が考えを選択し、共有しやすい学びの場となっていた。
- ・つくりを選んだり、紹介カードを書いたりする中で、友達や先生と交流しながら自分の考えを深めていく姿は自分の成長を実感する場にもなっていた。
- ・個人学び、他者との交流、教師との交流や支援と児童が流動的、主体的に学び方を選択できていた。

【研修のまとめ】

国語科の学習の中で「成長実感」をどう捉えるかについて、1年間研修を重ねてきた。研修を通して明確になった「成長実感」を、これまで以上に児童生徒の実態を踏まえ、「自ら学び、『言葉の力』を実感できる単元の創造」を目指していきたい。

